

第 62 回 カトリック召命チーム会合議事録

日時：2017 年 10 月 14 日（土）16:00-18:00

場所：岐部ホール **307 号室**

出席：井手口満師、佐々木多嘉男氏、松室康彦氏、大山悟（書記）
Sr.荒川佳世子、Sr.永田リツ子、氏家ゆり子氏、Sr.松宮るみ子、
久慈澄江氏、鈴木崇代氏、片岡秀美氏、小池日登美氏、
神学生：伊藤正広、李宣燁、孫聖和、高木健太郎、安坂通景
欠席：笠井三笠氏、Sr.小田切智恵子、藤倉彰三氏、大木聡氏、

I. 報告・確認事項

- A. HP み言葉コーナーの記事・・・以下の方々宜しくお願いします
10 月 Sr. 永田 11 月大山 12 月松室 1 月井手口 2 月大山 3 月 Sr. 荒川
- B. その他・・・なし

II. 2018 年度、「召命担当者の集い」に関して

A. 開催要項の確認事項

*テーマ：『青年と召命』

*内容：2 日あるので、四つの講話を行い、分かち合いの時間を十分に取る。

- ①青年たちの召命(広い意味)を育てるために教会は何ができるか・・・
→青年担当司祭による講演・・・サレジオ会・・・佐藤神父様、コンプリ師など
- ②青年とメディアと召命
 - ・青年への呼びかけにおいてメディアはどう使われるか。
 - ・現代のメディアの環境を知る
→パウロ会管区長 鈴木神父に依頼
- ③司祭、修道者の養成の現場から
 - ・どのような養成が、何に目指してなされているか
 - ・養成上の難しさと希望
→複数の男・女養成者からの発表・・・シンポジウム
- ④特別講演：青年の召命に促進に関する日本の司教団の戦略
→諏訪司教に依頼する
.....
- ⑤現代の世界、社会、教会に対する青年たちの疑問・関心事
→複数の青年からの発表・・・シンポジウム

*対象：全国召命担当者・・・司祭、修道者、司教
召命に関心を持つ一般信徒・・・また関心ある青年たち。

- *期間：2日間みっちり行う。テーマがテーマであるだけに、時間を十分に取った方がよい。
- *日程：2018年4月27日～28日の予定
- *場所：カトリック麴町聖イグナチオ教会の聖ヨセフホール、マリア聖堂、その他
- *感謝ミサを土曜日の5時から行う。諏訪司教司式、説教を依頼する。

B. 今後のスケジュール・確認

- ・11月・《青年と召命》についての召命担当者の集いの時間割決定
開催要項の確認と担当役割の決定
- ・12月・種々の依頼とお知らせ

Ⅲ. 神学生・初年度生を迎えて

A. チームから神学生への質問

1. 召命のきっかけは

- *要理を学んでいるときシスターから司祭への道を勧められた。単純な疑問があった。死んだらどうなるか、生きる目的は何なのか。
- *ある司祭に、要理を勉強しているとき、まだ信者になる前に「司祭になれ」といわれた。
- *教区の現状を見て、自分が役に立てばという思いで召命の道に入った。
- *文学書を読み、聖書に惹かれ、そこから教会へ、そして召命の道へ進んできた。
- *聖書を読み、教会に行き、長く召命を考え祈ってきた。

2. 両親の反対をどう説得してきたのか

- *神学生になって教区で働きを話している間に、少しずつ理解してもらっている。

3. シスターの司祭召命への勧めが何故力になるのか・高齢シスターの熱意が伝わったから。

4. 神学生の皆さんはどんな教会を望むか

- *入りやすい教会を
- *若者が足を運びやすい教会
- *動き、働いている活発な、生きた教会
- *教会の境界線を壊し、出かけていく教会
- *今の時代に福音を望む人に、福音を伝えたい。
- *平和と命を大切にしたい

5. 教会に行ったきっかけは

- *聖パウロ書院にいてシスターに接して
- *神父とゲームをして、父親が神父に負けたので家族全員が洗礼を受けた
- *魅力ある司祭に触れて洗礼を受けた
- *知的好奇心から教会へ行くようになった
- *聖書を読みたいと思ったことから

6. 神学院の生活は厳しいか

- *神学院は守られているので、社会人の厳しさを忘れてしまう
- *神学院でしか学べないこともある・祈りなど
- *神学院は自由であるが、自己責任は自分にあるので、ある意味では厳しい。

B. 神学生から召命チームメンバーの質問

1 「現代の若者についてどう考え、活動しているか」

①. 教会への回帰

- ・学生時代は、教会で活動し、友達もいる。そのため教会に行く。
 - ・仕事に就き、結婚して子供ができると教会に行かなくなる。忙しさなどで。
 - ・ある程度の年齢になると教会に戻るようになる。
- *従って教会に行っている間に、霊的に深い神との出会いを体験させることが必要。

- ②. 若者たちも神との出会いを熱望し、体験する。
- ・ WYD,AYD に参加した若者が異口同音に神体験を口にする。
 - ・ 社会に出ると神との出会いが希薄化していく。
 - ・ 若者たちは「みことば」とその力を求めている。
 - ・ 現代の若者は《もの》に満たされている。
 - ・ みことばに生かされるとき、霊的に満たされること知り、その体験を望んでいる。



*司祭、神学生は神のみことばに生かされる姿を示して欲しい。

- ③. 現代の若者は、教会に場を求めている
- ・自由に集まり、話し合える、出会える場。
 - ・自分たちが活動できる場・役立つ場・役立ち感、生き甲斐を感じる場
 - ・愛され、受け入れられ、安心で着る場
 - ・現代の若者は、具体的関わりをもとめている。こちらから近づいて行くことが大切。



- *若者は人間的な交わり、関わりを求めている
- *若者は精神的な癒しの場を求めている
- *青年は神による霊的な癒しと、神との霊的関わりを求めている。

- ④. 青年たちは自己管理ができ、多様な可能性を持っている。
- *青年たちの力を理解し、受け入れ、引き出し、発揮させることが大切。

B「現代の教会をどう捉えて活動しているか」

- ①. 教会は社会にアプローチする技量と術を持っている。
- ・教会が社会にアプローチできる力は「愛すること」
 - ・愛を教え、愛を生き、愛を伝え、愛を感じ取らせることができる。
- ②. 教会は腰が引けている
- ・教会に行き、助けを求めても「応えてもらえない」「助けてもらえない。」「近づいてきてくれない」
 - ・教会の力
 - ・全てに対して全てとなる力があるはず・キリストの霊に生かされるなら・
 - ・難しい問題を抱えた人に「関わる力がない」
 - を「煩わしく思う」
 - を「恐れている」
 - に「関わる方法が分からない」
- ↓
- *神学生はどんな人に関われる力を身に付けて欲しい
 - *教会には全ての人に関わる力があることを、自信を持って示して欲しい。

次回会合：11月11日・定例会は307号室

12月9日(この日のみ306号室)

1月13日、2月休会、3月休会